

私のおすすめの場所

そこは東粧谷防災公園です。

東粧谷小学校のPTA会長になり、早いもので4年が経ちました。1年を通じて様々な行事を、子どもたちと防災公園で行っています。

春。 防災公園内のコミュニティ農園に、サツマイモの苗を1・2年生が植えます。畝を作るのはボランティアの保護者です。畑を耕す作業もボランティアの保護者・先生で行っていました。大田区地域基盤整備第二課の方に相談したところ、耕運機でやっていただけようになりました。

夏。 夏休み初日からラジオ体操を、防災公園の芝生広場で行います。朝早くから、地域の方たちと一緒に汗を流します。網を持ってくる子もおり、ラジオ体操が終わると虫取り、おいかっこが始まります。

秋。 「コミュニティ農園に植えたサツマイモの収穫、芋ほりです。芋をほりあてたときの子どもたちの嬉しそうな顔が、ボランティアの保護者の1番のご褒美です。

採れた芋は、防災公園のベンチを使って焼き芋にします。普段使っているベンチが、防災時にはかまどになることも学ぶことができます。

冬。 全校児童が持久走記録会を行います。低学年は防災公園の内周を、中学年は外周を、高学年は内周と外周を走りまわす。町会の方に見守られながら、全児童が完走目指して走り抜けます。その一生懸命走る姿に、毎年感動します。

四季折々の花木を眺めながら、子どもたちのにぎやかな声を聞きながら、お散歩しにぜひいらしてください。



「かまどになるベンチ」

すてきなわが町

第2回 ◇西粧谷一丁目◇

粧谷で生まれ育った主人の家に嫁いで、四半世紀。地域の繋がりの薄い新興住宅地から来た私には、粧谷は人情味あふれる不思議な町でした。通りごとに銭湯があって、しょうぶ湯やみかん風呂の時もあったり、スーパーの2階にベニーボウルというボーリング場があったり、今でこそ立派な粧谷駅も、当時は通りからひよいとのおぼれそうな狭いホームの駅でした。一番驚いたのは、祭り半纏を着た人が普通に通りを歩いていたり、お神輿が商店街を練り歩くの間近に見れた時です。

娘が西粧谷児童館に行っていた頃は、毎年阿波踊りに参加し「西粧谷ちび助連、やっせとせと」と大声を張り上げて熱狂したのを覚えています。西粧谷一丁目の特徴は、おいで通りに繋がる粧谷商店街を挟んだ住宅街が主体といった感じでしょうか。そんな西粧谷一丁目にも昨冬、多くの会員の力を結集して、エレベーター付きの立派な町会会館が完成したことは、一大トピックスです！一般公開の日には、真新しい白木の床が眩し

く、「ここに引っ越したくらい」という賞賛のため息も…。元々仲江名天神社（西宮）Ⅱ（東宮は二丁目）の社務所地下には防火用水槽があり、新館もそれを残した建築となり、そこに通じるマンホールも見学させてもらえました。

町会の仕事や地域のことなど知らないことだらけでしたが、こんなに住みよい所なのだから、この地で安心して、楽しく暮らしていけるよう工夫できたらいいなと思います。粧谷という素敵な地名も、木花咲哉姫から、木の花←粧となったなど諸説あるようですが、班内にも民泊ができたり、商店街にもお洒落な新しいお店が出来ていたりこれからの時代の波を感じさせます。

コロナ禍以前は、踊りの師匠の下、美人婦人部による盆踊りの練習に励み、子安八幡神社にも遠征して、ご褒美にお米をいただきます。残念ながら今年も町会行事の中止が相次いでいますが、こんな時こそアイデアを練って、次の時代に備えていければとの思いであります。

(K・T)